

令和7年度

事業報告書及びその附属明細書

学校法人 土浦日本大学学園

## 1 法人の概要

### (1) 土浦日本大学学園建学の精神

日本大学の目的および使命に基づき、国家社会の有為な人材を育成する。

#### ※ 日本大学の目的および使命

日本大学は、日本精神にもとづき、道統をたつとび、憲章にしたがい、自主創造の気風をやしない、文化の発展をはかり、世界の平和と人類の福祉とに寄与することを目的とする。日本大学は、広く知識を世界にもとめて、深遠な学術を研究し、心身ともに健全な文化人を育成することを使命とする。

#### ※ 日本精神

上代における、「明き、浄き、直き誠の心」を源流に、祖国の尊厳に対する強い自覚を根底として広く世界の文化を受容し調和し、改めて創造して自らの文化を高め、世界のうちに自己を伍せしめ自分を立てていく日本人固有の精神をいう。

### (2) 学校法人の沿革

昭和26年	4月	学校法人土浦女子学園 土浦女子高等学校が創立
昭和38年	2月	学校法人土浦女子学院と日本大学が準附属契約を締結
昭和38年	2月	土浦高等学校を設置
昭和38年	3月	学校法人土浦女子学院を学校法人土浦学園に改称
昭和39年	7月	土浦高等学校を土浦日本大学高等学校に改称
昭和40年	9月	土浦日本大学高等学校附属小松台幼稚園（現土浦日本大学高等学校附属幼稚園）開設
昭和49年	4月	土浦日本大学高等学校岩瀬校舎開設
平成12年	1月	学校法人土浦学園を学校法人土浦日本大学学園に名称変更認可
平成13年	10月	岩瀬日本大学高等学校全日制課程普通科設置認可
平成14年	4月	岩瀬日本大学高等学校開校
平成14年	10月	土浦日本大学中学校設置認可
平成15年	4月	土浦日本大学中学校開校
平成18年	10月	土浦日本大学中等教育学校設置認可
平成19年	3月	土浦日本大学中学校廃止認可
平成19年	4月	土浦日本大学中等教育学校開校
令和3年	2月	土浦日本大学高等学校通信制課程普通科認可
令和3年	4月	土浦日本大学高等学校通信制課程普通科開校
令和5年	3月	土浦日本大学高等学校附属幼稚園が幼稚園型認定こども園に認定
令和5年	4月	土浦日本大学高等学校附属幼稚園を幼稚園型認定こども園へ移行

## (3) 設置する学校

設置する学校	開校年月	課程・学科	備考
土浦日本大学高等学校	昭和38年4月	全日制普通科	
土浦日本大学高等学校	令和3年4月	通信制普通科	
岩瀬日本大学高等学校	平成14年4月	全日制普通科	
土浦日本大学中等教育学校	平成19年4月	(後期課程) 全日制普通科	
土浦日本大学高等学校附属幼稚園	昭和40年9月		令和5年4月幼稚園型認定こども園へ移行

## (4) 当該学校の入学定員, 生徒数

(令和7年5月1日現在) (単位:人)

学校名	入学定員数	収容定員数	現員数	摘要
土浦日本大学高等学校 全日制	630	1,890	1,783	入学定員530人 収容定員1,590人から R1年度に変更
土浦日本大学高等学校 通信制	160	480	101	R8.3.31日現在130名
岩瀬日本大学高等学校	200	600	471	入学定員225人 収容定員675人から R1年度に変更
土浦日本大学中等教育学校	160	960	852	募集定員は H.20 から 140名, H27 から 120 名, R.4 から 120名+若 干名,R5 から 140名
土浦日本大学高等学校附属 幼稚園	80 (70)	240 (210)	135	R8.3.31日現在152名 (下段:利用定員)
合計	—	—	3,342	

## (5) 役員概要

定数 理事 6名以上11名以内 監事 2名

実員数 理事 11名 監事 2名

(令和8年5月1日現在)

区分	氏名	常勤・非常勤 の別	摘要
理事長	伊藤 哲弥	常勤	平成29年4月理事就任 令和7年3月理事長就任
副理事長	富田 修	常勤	令和7年3月理事就任 令和7年6月副理事長就任 学校法人土浦日本大学学園事務 局長兼務

区分	氏名	常勤・非常勤の別	摘要
日本大学派遣理事	根本 修克	非常勤	令和3年7月理事就任 日本大学工学部長
日本大学派遣理事	谷 龍樹	非常勤	令和6年1月理事就任 日本大学松戸歯学部事務局長
理事	中島 祥博	非常勤	平成26年12月理事就任 開業歯科医
理事	吉田 正俊	非常勤	平成27年4月理事就任 前土浦日本大学高等学校校長
理事	村松 輝美	非常勤	平成27年5月理事就任 元土浦第一高等学校校長 元土浦日本大学高等学校校長
理事	市村 仁	非常勤	平成31年4月理事就任 元土浦第一高等学校校長 元茨城県体育協会専務理事
理事	吉田 邦孝	常勤	令和3年4月理事就任 岩瀬日本大学高等学校校長
理事	堀切 浩一	常勤	令和3年4月理事就任 土浦日本大学中等教育学校校長
理事	赤松 浩二	常勤	令和7年3月理事就任 土浦日本大学高等学校校長
監事	吉村 智明	非常勤	平成29年7月監事就任 公認会計士
監事	五三 智仁	非常勤	令和7年6月監事就任 弁護士

前会計年度の決算承認に係る理事会開催日後の退任役員

区分	氏名	常勤・非常勤の別	摘要
常務理事（幼稚園担当）	伊藤 芳博	常勤	平成23年4月理事就任 令和7年6月24日付退任
監事	大久保 和子	非常勤	令和4年4月監事就任 令和7年6月24日付退任

(6) 評議員の概要

定数 13名 実員数 13名

(令和8年5月1日現在)

氏名	当初就任年月	摘要
高野 健治	平成26年6月	茨城県警勤務
鍵田 二郎	平成27年4月	土浦日本大学高等学校事務長
小幡 康	平成29年12月	会社役員
小澤 依里	令和4年4月	司法書士
福原 祐介	令和6年9月	土浦日本大学高等学校教頭
高松 宜子	令和7年3月	土浦日本大学高等学校附属幼稚園園長

氏名	当初就任年月	摘要
佐藤 豊文	令和7年3月	土浦日本大学高等学校副教頭
上原 和人	令和7年6月	株式会社代表取締役社長
長谷川 和輝	令和7年6月	会社員
菊地 正臣	令和7年6月	開業医
川口 政弥	令和7年6月	茨城県議会議員
磯崎 達也	令和7年6月	茨城県議会議員
高橋 直子	令和7年6月	茨城県議会議員

(7) 会計監査人の概要

定数 1名 実員数 1名

(令和8年5月1日現在)

氏名	当初就任年月	摘要
松村 栄	令和7年6月	公認会計士

(8) 教職員の概要

(令和7年5月1日現在) (単位:人)

区分		学校法人	土浦日大 高 校 全 日 制	土浦日大 高 校 通 信 制	岩瀬日大 高 校	中等教育 学 校	幼稚園	計
教員	本務	—	130	2	38	74	8	252
	兼務	—	40	15	12	13	5	85
職員	本務	—	20	1	6	7	4	38
	兼務	—	24	0	1	2	1	28
計			214	18	57	96	18	403

(9) その他

学校法人日本大学と準付属校の取扱いに関する契約書を締結している。

## 2 事業の概要

### (1) 主な教育活動等の概要

部門: 学校法人

事業項目	事業内容
令和7年度 事業概要	① 理事会の実施(第1回 5/28, 第2回 6/24, 第3回 9/11, 第4回 12/3, 第5回 3/3, 第6回 3/17, 第7回 3/31) ② 評議員会の実施(第1回 6/24, 第2回 9/11, 第3回 3/25) ③ 第8回理事長主催健康講座の実施 ④ 新寄附行為に沿った理事会・評議員会の開催およびその運営(理事・監事・評議員・ 会計監査人選任プロセス, 評議員会の招集の際は, 理事会で議案を決定等) ⑤ 学校法人土浦日本大学学園諸規程の見直し (1) 納付金改定等に伴う学則等の変更 土浦日本大学高等学校学則(全日制課程)の一部変更 土浦日本大学高等学校学則(通信制課程)の一部変更 岩瀬日本大学高等学校学則の一部変更に関する件 土浦日本大学中等教育学校学則の一部変更に関する件 土浦日本大学高等学校特待生規程(全日制課程)の一部改正 土浦日本大学高等学校特待生規程(通信制課程)の一部改正 岩瀬日本大学高等学校特待生規程の一部改正 土浦日本大学中等教育学校特待生規程の一部改正 (2) 育児・介護休業法の改正に伴う規程の改正 学校法人土浦日本大学学園教職員育児休業・介護休業規程の一部改正 (3) 寄附行為改正に伴う諸規程の整備 学校法人土浦日本大学学園組織規程の一部改正(副理事長の職務・任期等 を規定)

部門: 土浦日本大学高等学校

事業項目	事業内容
令和7年度 事業概要	日本大学付属高校という基盤の上に、茨城県をリードする進学校、県下のスポーツ強豪校、 国際化に向けたグローバル推進校という側面を強化し、生徒一人一人の個性を尊重する3 コース5クラス体制を生かした取り組みを展開した。学習面においては、基礎学力および思考 力・判断力の強化を各コースの目的に応じた取り組みで実施し、日本大学基礎学力到達度テ ストおよび大学入学共通テストへの対策へとつなげた。また、校外学習や課外活動、宿泊学習 などの体験的な学習を活用して主体的に取り組む姿勢を育成した。その結果、進路面では、付 属推薦による日本大学への合格、国公立大学医学部等の最難関大学への合格、学校推薦型 選抜を活用した筑波大学・茨城大学への合格、海外大学への合格など高い実績を上げた。特 に、初年度となる特別進学コース私大文系クラスからは慶應義塾大学や立教大学など難関私 立大学へ多数の合格者を排出した。令和8年度は、GSコース理系クラス1期生が卒業を控 え、部活動においては、バスケットボール部やバレーボール部が男女で全国大会出場を果た すなど、強化指定部を中心に多くの部活動で全国大会・関東大会出場以上の輝かしい成果を 上げた。
学習指導	学習指導要領に基づき、①知識・理解②思考・判断・表現③主体性の3観点に基づく評価 のを定期考査や確認テストの結果と結びつけることで、全教員が同じ評価軸で生徒の学 力を捉えることができ、学校全体として確かな学力の育成につなげることができた。また、 日大基礎学力テストや大学入学共通テストに向けた特別課外や学校推薦型選抜への論 述指導や面接指導など、進路に直接的に結びつくような学習指導を実践することで、進路 実績につなげた。また、新任教員に対して個々に指導教諭を配置することで、教科指導・H R指導を強化し、教員指導力の底上げを図った。

進路指導	<p>例年実施している日本大学出張講義(模擬授業)の開催に加えて、個別の大学訪問など、これまで以上に高大一貫教育に力を入れた。また、日本大学基礎学力到達度テストに向けた春季および秋季の対策模試や特別講座を実施により、日本大学への合格につながった。</p> <p>東大課外や筑波大推薦対策指導の充実、実用技能英語検定(英検)などの資格取得促進に努めたことで、難関大学へに多数の生徒が合格した。特に、特別進学コース私大文系クラスの設置により、文系クラスの進路指導の効率化が図られ、進路実績につなげることができた。また、教員を大学や予備校主催の説明会に教員を参加させ、受験における教科指導力の向上を図った。</p>
国際化教育	<p>GSコースのオーストラリア短期留学・カナダ中期留学の継続実施に加えて、海外修学旅行(オーストラリア)とハワイ英語研修、日本大学によるケンブリッジ大学プログラムへの生徒派遣など、国際化に向けた体験的な学びを実施した。また、校内においてもJICA講演会・国際社会人講演会など、国際人として必要な資質を学ぶ機会を持った。その結果、特別進学コースからも海外大学への進学者が出るなど、海外志向の生徒を育てることができた。</p>
<p>学校生活</p> <p>生徒指導</p> <p>いじめ対策</p> <p>教育相談</p> <p>部活動</p> <p>防災(庶務)</p> <p>行事等</p>	<p>「あいさつの励行」、「端正な服装頭髪の徹底」、「社会のルールやマナーの遵守」、「いじめの根絶」を主要目標として取り組んだ。多様なバックグラウンドをもつ生徒がいる中で、教育相談部と連携を取りながら、生徒の実情を理解・共有した指導を展開した。</p> <p>「いじめ防止基本方針」に基づいて、諸案件に対応した。教員に対しては、学内外のケーススタディ等を教職員会議において定期的に共有し、生徒に対しては、アンケート・講話の実施など学内のいじめ防止および早期発見に積極的に取り組んだ。残念ながら令和7年度においては、いじめとして認定した事案が発生してしまったが、認定後は対策室を中心に対応し適切に指導した。今後、未然防止の取り組みをこれまで以上に強化していく。</p> <p>教育相談部を中心に、常駐のスクールカウンセラーと共に生徒・保護者等に対応した。新入生ガイダンス・エゴグラム(性格検査)を行うとともに、全生徒に対して学校不適応調査を年6回実施し、実態把握・生徒理解に努め、担任・学年と連携して不適応生徒に即応した。</p> <p>茨城県総合体育大会で男子は5年連続で優勝した。バスケットボール部、バレーボール部の男女による冬の全国大会同時出場を始め、柔道部、剣道部、レスリング部、陸上部のインターハイ出場など、華々しい成果を上げた。また、音楽部の全国大会出場や科学部の生徒による日本学生科学賞入賞など、文化部においても活躍が見られた。</p> <p>全校による避難訓練を年3回実施するとともに、夏季教員研修会において、外部講師を招いて緊急時の対応について学び、避難訓練のあり方の見直しを図った。また、これまでと同様に全生徒分の防災グッズの備蓄を継続した。</p> <p>生徒が主体となって自主的な活動を行う機会が増え、多くの生徒がボランティア活動に参加した。また、マナーアップ活動や家庭科愛好会が主催となった「こども食堂」の実施など、他校生徒や外部団体との連携による活動が増えた。</p>

入試広報(入試)	<p>本校の教育方針、多様なカリキュラムの詳細がわかる学校案内を作成した。ホームページやSNSを利用して、学校行事や部活動の活動実績を広く紹介するとともに、中学校や学習塾の訪問など、組織的かつ計画的な広報活動を行った。特に、本校イベントの申し込みやWEB出願によって得られた情報を精査することで、地域別増減や通塾状況等の分析を行い、焦点を絞った効果的な活動を実施した。</p> <p>私学無償化による給付型奨学金制度の拡充、チャレンジ試験の導入、英語資格のみなし得点制度の実施、特進アスリートの募集、GSコース理系クラスと特別進学コース私立文系クラスの設置など、近年新たに打ち出した入試制度や教育内容について、広く正確に周知されるように広報活動を行った。その結果、定員を大きく上回る入学者の確保につながった。</p> <p>本校を第一志望とする生徒の獲得に向け、出願基準や海外入試会場の設定等の新たな入試制度について検討した。また、新制服やコース再編等の募集につながる案件について、関係部署と連携をしながら検討を進めた。</p>
施設設備	<p>体育の授業・部活動等で熱中症事故ゼロを目指し、総合体育館レスリング場への冷暖房設備を設置した。また、経年劣化が進んでいたテニスコートについて、大幅な改修を行うとともに、強い日差しを受ける教室に対して遮光カーテンを設置した。引き続き、生徒が安心・安全に学校生活を送れる施設設備の整備を第一義とし、定期点検を怠らずに教育環境(校舎等)の保全を行っていく。</p> <p>生徒がICT機器を活用した学習等を進めるための環境改善や教職員の円滑な校務遂行のための教員用機器の配備等、環境整備を進めていく。令和7年度は、教職員用パソコン更新時に、校務のみならず、授業で教室用WiFi・プロジェクターとともに活用できるよう、タブレット型ノートパソコンを購入し、ICT教育環境の充実を図った。また、新たな校務システムを導入し、教職員の出張・休暇や生徒データが一元的に管理できるようになった。</p> <p>2027年末に生産中止となる校内蛍光灯のLED取替工事を進めた。電気料金高騰が続くなか、引き続き省エネ対策を行い、教育の充実が図れるよう努める。</p>
運営・管理	<p>学校自己点検評価および外部評価を行い、教育活動の成果を検証することで学校運営の改善につなげた。また、若手教員を中心に教科指導やHR運営の研修を実施し、指導力の底上げを図った。</p>
父母と教師の会・同窓会・地域活動等	<p>桜華祭(文化祭)への保護者参加、保護者音楽鑑賞会「コスモスのしらべ」、父母と教師の会研修旅行、野球応援、制服バザーなど、保護者参加型の活動を実施した。また、父母と教師の会各支部で進路講演会を実施するなど、保護者交流の場を増えた。</p> <p>ホームカミングデー、教育関係者懇談会(桜華会)を実施した。また、同窓会についても役員会等を計画通りに実施することができた。今後も卒業生と本校との交流の場をすることで、卒業生のネットワークを活かした生徒募集基盤の確立につなげていきたい。</p> <p>生徒会を中心に地域清掃や土浦駅の環境美化、放課後こども食堂への参加など、地域社会へのボランティア活動を行った。今後も継続して実施していきたい。</p>

部門: 土浦日本大学高等学校通信制課程

事業項目	事業内容
令和7年度 事業概要	<p>生徒の進路目標に即したコース(進学、通学、一般、スポーツ・芸術)も定着し、コース選択も適切に実施できた。特に、進学コースでは日本大学進学を含む大学進学を目指してきめの細かい進路指導を軸に展開した。また、生徒からは専門学校、就職と多様なニーズがあり、担任や就職担当教諭により個別指導の充実を図った。</p> <p>体調等の理由により登校に制約のある生徒を対象とした「メディア活用クラス」を設けて、スクーリングの効率化を図るなど、対象の生徒の学習環境も整理した。</p> <p>スクーリング等において全日制施設の活用を図り、スムーズな授業を展開できた。</p> <p>年度途中の転籍・転入生や次年度新入生のさらなる増加を目指し、進路相談会(11回実施)、個別相談会や中学、高校への訪問、HP等により、きめ細やかな指導体制や進路実績等を発信した。</p> <p>学校生活の充実を目指して、従来の宿泊学習(1泊2日蓼科林間学園)、ボランティア活動(大洗サンビーチ)、全日制行事への参加等に加え、本年度より修学旅行(長崎2泊3日)、学年度末遠足(ディズニーランド1日)を実施できたことは、生徒間の親睦を深める素晴らしい機会となった。</p> <p>また、様々な競技に取り組む生徒には、学習指導と並行して個々の競技で力を発揮するための支援を継続し、世界で活躍する生徒を輩出するなど各競技で充実した競技実績を残すことができた。</p>
学習指導	<p>生徒の進路目標に向けて4コース(進学、通学、一般、スポーツ・芸術)の特色を活かした学習指導に取り組んだ。個々の生徒の進路目標について面談等を通してしっかりと把握し、個別指導に活かした。特に、大学、専門学校を志望する生徒には家庭学習の充実へ向けた指導・支援の向上を図った。就職を志望する生徒には就職担当が求人票の見方から寄り添い、個に即した指導を展開した。進学・通学コースでは授業担当者がシラバスで計画した週3日間の授業(オンラインあり)を展開し、学習の定着を図った。</p> <p>スポーツ競技に取り組む生徒には、競技と並行した学習指導を適宜実施した。</p> <p>学習指導や面談を通して生徒個々の学習に対する進捗状況を把握しながら、無理なく生徒の目標進路が達成できる指導・支援に配慮した。また、体調等で通学できない生徒に対しては授業のライブ配信やメディア活用クラスにより、個々に適した方法で学習を進めた。</p>
進路指導	<p>生徒の進路目標は大学、専門学校、就職や高校卒業資格取得など多様であり、個々の目標に適した個別の進路指導に取り組んだ。</p> <p>進学コースでは日本大学を含む大学入試合格を目指し、特別編成授業(春・秋)、全日制と連携した日本大学出張講義や各職種の講演会を実施することで、学習の積み上げやモチベーションの向上を図り、生徒・保護者と面談を通して主体的に考える機会とした。</p> <p>本年度は日本大学内部推薦試験にて文理学部1人、法学部1人、国際関係学部2人、生産工学部2人の6人が合格した。その他、既卒生2人が一般受験により理工学部、通信教育部文理学部に合格した。</p> <p>私立大学では早稲田6学部、慶応、立教、上智、中央、國學院2学部、二松学舎、文教等の難関大学14学部合格者を輩出した。その他、聖心女子、昭和音楽、桜美林、流通経済、茨城キリスト、麗澤、明星、常盤、東京通信等を含めた私立大学17大学、専門学校8校に合格した。2人が就職している。</p> <p>また、既卒生が国公立大の東京外語、茨城、加えて日本大学(2人)のほか、青山学院、麗澤、常盤、日本国際学園の私立大学に合格した。卒業後も連絡を取りながら支援した成果であると考えられる。</p>
国際化教育	<p>外国文化に触れる海外修学旅行の計画はしていないが、本年度より2泊3日の国内修学旅行を実施した。目的地も長崎県と歴史的な海外との交流文化に触れ、体験できたことは有意義であった。次年度も生徒の意欲等を把握しながら、修学旅行を継続して実施する。</p>
学校生活 生徒指導	<p>社会人として一般常識を身に付けることを目指した生徒指導を日々の教育活動におけるあらゆる機会を活用して実施した。そのなかで、生徒の個性や人権に配慮した生徒指導を軸としている。</p>

いじめ対策	「土浦日本大学高等学校いじめ防止基本方針」に基づいて全日制課程で設置しているいじめ防止対策室との連携やいじめアンケート等の実施及び結果の活用により、学内のいじめ防止および早期発見に取り組んだ。結果として、いじめに関しては「該当事例無し」であった。
教育相談	全日制課程に常駐するスクールカウンセラーと協働して生徒・保護者等の悩みに対応した。カウンセリングを受けた生徒からは肯定的な意見が寄せられている。普段の健康面については養護教諭が相談を受けて解決を図り、また、アンケートを実施するなど学校全体で課題を抱える生徒に対応した。
部活動	部活動は実施していないが、スケートボードパークで世界ランク1位となった生徒、ジュニアユースパラ大会で4位入賞した生徒、全日本武術太極拳選手権2位となった生徒など実績を積み上げ、各競技で充実した競技実績を残すことができた。
防災(庶務)	右靱桜キャンパスで防災訓練を実施し、迅速に緊急事態に対応するなど防災意識の向上につなげた。
行事等	本年度、初めて修学旅行、学年末遠足を企画・実施した。5月に長崎県2泊3日の日程で修学旅行、3月に日帰りで学年末遠足(ディズニーランド)には各学年から多くの生徒が参加し、社会的な知見の広がりや、友人関係の構築など大きな成果を得られた。また、従来の宿泊学習(9月1泊、蓼科林間学園)、校外学習(10月日帰り、陶芸美術館、手ひねり体験、笠間市)等を通して、①秩序ある団体行動、規範意識、社会性を身に付ける。②生徒相互の交流による協調性と人間性の向上を目指した。加えて、特別授業、ボランティア活動、大学模擬授業、各種講演会を全日制と協働して実施した。 多岐に渡る学校行事の充実は生徒の愛校心の育成や級友との親睦につながった。
入試広報(入試)	茨城県や近隣の中学校・高等学校を計画的に訪問し、本校の特色を広報した。右靱キャンパスで進路相談会(11回)を開催し、全体説明や個別相談により本校の特色を説明した。参加者からは転学や入学につながった生徒もいる。 また、日本大学を含めた大学合格実績や生徒に対する支援体制、学校行事など他の通信制にはない本校の特色をHPや訪問等で発信し、広報に努めた。 結果として、新入生徒数が伸び悩んでおり、より効果的な広報活動や学校が苦手な生徒対応のメディア活用クラスを積極的に発信することで新入生徒の増加につなげたい。
施設設備	校舎設備の効率的な活用を推進し、授業、夏・冬季集中スクーリングや自習、個別指導、面談などがスムーズに展開できた。また、一昨年より実施している岩瀬日大高における集中スクーリングを利用する生徒も若干名ではあるが増加傾向であり、柔軟な対応は本校の教育活動の幅を広げることに繋がった。 また、教員用パソコン更新時に、校務のみならず、授業で教室用WiFi・プロジェクターとともに活用できるよう、タブレット型ノートパソコンを購入し、ICT教育環境の充実を図った。 最寄りの土浦駅やつくばセンターからの生徒送迎もおおむね順調で、生徒の通学環境が格段に向上している。
運営・管理	学校自己点検評価および外部評価を実施し、校務活動に活かした。
保護者・地域活動等	保護者と学校が一体となって生徒の学習が充実するように、レポート提出、スクーリングの状況を保護者と適切に共有し、生徒への指導・支援の充実を図った。

部門：岩瀬日本大学高等学校

事業項目	事業内容
令和7年度 事業概要	<p>「学力の向上，学校生活の充実，進路実現，入学者の確保」の4本柱のもとに様々な事業を行った。特に入学者の確保に向けた施策の工夫と事業内容充実を図った。</p> <p>全ての生徒の可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現を目指した学習指導と学習評価を実施した。</p>
学習指導	<p>1. 学力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①学習手帳を購入させ，生徒のP D C Aサイクル確立を目指した。</li> <li>②通年の課外学習，夏期課外，冬期課外を実施した。</li> <li>③蓼科サマースクールを実施した。</li> <li>④定期考査前学習指導会を実施した。</li> <li>⑤習熟度別授業を実施した。</li> <li>⑥到達度テスト対策のため，8月後半より授業を開始した。</li> <li>⑦授業担当者会議を実施した。</li> <li>⑧SDGsをテーマとした1・2年の総合的な探究の時間の推進と充実を目指した。</li> <li>⑨映像講座を活用した学習支援を行った。</li> </ul> <p>2. 教員研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①全教員研修会を実施した。</li> <li>②学校で非認知能力と認知能力を共に育てるために，茨城県私学教職員研修会の報告を受けた後，グループ研修を実施した。</li> <li>③授業参観ウィークを実施し，授業改善に向けて取り組んだ。</li> </ul> <p>3. 高大連携，入試改革に沿った特色ある教育作り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①I C T教育活用推進委員会の設置した。</li> <li>②主体的な活動を促す学習プログラムの研究を行った。</li> </ul>
進路指導	<p>1. キャリア教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①進路オリエンテーションを実施した。</li> <li>②進路シンポジウムを実施した。</li> <li>③「オープンキャンパスへの歩き方」（事後レポート作成）を実施した。</li> <li>④進路講演会，卒業生講演会を実施した。</li> <li>⑤就職希望者ガイダンスを実施した。</li> <li>⑥大学等出張講義を実施した。</li> </ul> <p>2. 進学指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①日本大学学部説明会を実施した。</li> <li>②保護者会を実施（進路関係）した。</li> </ul> <p>3. 卒業前，入学前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①卒業前教育（在校生），入学前教育（入学予定者）を実施した。</li> <li>②受験報告会を実施した。</li> </ul>
国際化教育	<p>1. 国際理解教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①オーストラリア（ケアンズ）修学旅行を実施した。</li> <li>②ハワイ英語研修に参加した。</li> <li>③サマープログラム（ケンブリッジ），イースタープログラム（ケンブリッジ）に関して，今年度の参加者希望者はいなかった。</li> <li>④J I C A主催研修会参加した。</li> </ul>

<p>学校生活</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な生活習慣の確立       <ol style="list-style-type: none"> <li>①通学路や校門での通学指導を実施した。</li> </ol> </li> <li>2. 安全教育       <ol style="list-style-type: none"> <li>①スクールバス乗車指導会を実施した。</li> <li>②インターネット安全教室を実施した。</li> <li>③薬物乱用防止教室を実施した。</li> <li>④いのちの教育（性と生）を実施した。</li> <li>⑤交通講話を実施した（自転車ヘルメット着用も含む）。</li> </ol> </li> <li>3. いじめ防止対策       <ol style="list-style-type: none"> <li>①いじめアンケート調査を年5回実施した。</li> <li>②いじめ防止対策室会議の定期開催した。</li> <li>③いじめ防止対策研修会を実施した。</li> </ol> </li> <li>4. 教育相談       <ol style="list-style-type: none"> <li>①外部カウンセラー来校日を設定した。</li> </ol> </li> <li>5. 部活動の活性化       <ol style="list-style-type: none"> <li>①強化指定クラブを設定し、部活動の活性化を図った。</li> </ol> </li> <li>6. 防災教育       <ol style="list-style-type: none"> <li>①避難方法、避難経路の点検・見直しを行った。</li> <li>②年2回の避難訓練を実施した。</li> <li>③防災集会を実施した。</li> <li>④保健体育の授業で普通救命講習会を実施した。</li> <li>⑤学校危機管理マニュアル研修会を実施した。</li> </ol> </li> <li>7. 個別・不登校支援       <ol style="list-style-type: none"> <li>①委員会を設置し、多様化する生徒に対応・支援した。</li> </ol> </li> </ol>
<p>入試広報</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生徒募集       <ol style="list-style-type: none"> <li>①中学校一斉訪問を実施した。</li> <li>②中学生対象学校見学会（オープンスクール）を実施した。</li> <li>③塾対象説明会・保護者対象説明会を実施した。</li> <li>④合格者対象の個別相談会を実施した。</li> <li>⑤特技推薦の積極的な募集活動を行った。</li> <li>⑥入試担当者による地区割の広報活動を行った。</li> <li>⑦推薦入学者の志願数を増やす施策を検討した。</li> <li>⑧R8年度から始まる私立高校所得制限なしの授業料無償化について受験生・保護者へ周知した。</li> <li>⑨中学2年生対象の学校見学会を実施した。</li> </ol> </li> <li>2. 広報       <ol style="list-style-type: none"> <li>①HP・保護者専用ページを充実させた。</li> <li>②広報誌を発行（岩日だより）した。</li> <li>③HPや動画コンテンツの更なる充実を図った。</li> <li>④SNSによる情報発信を行った。</li> <li>⑤SNS広告(地域・年齢層を絞った年3回のイベント案内)配信をした。</li> <li>⑥LINE公式アカウントによるメルマガ配信をした。</li> <li>⑦ターゲティング広告により石岡・笠間・水戸地区の受験生・保護者へ訴求した。</li> </ol> </li> <li>3. 入学者・入学予定者指導       <ol style="list-style-type: none"> <li>①入学前教育教材を配布した。</li> <li>②入学予定者学習会を実施した。</li> <li>③特別進学コースの説明会を実施した。</li> <li>④部活動見学会・説明会を実施した。</li> </ol> </li> </ol>

施設設備	<p>築30年以上を経過した老朽施設が複数存在するため、今後資金の留保を行いながら施設設備の更新を順次行う計画の中、令和7年度は、施設内照明の一部LED化等現状の施設を修繕、改良しながら教育活動を行った。</p>
運営・管理	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業・高校生活 <ol style="list-style-type: none"> <li>①授業アンケート調査の実施した。(生徒)</li> <li>②高校生活アンケート調査の実施した。(生徒)</li> </ol> </li> <li>2. 学校自己評価 <ol style="list-style-type: none"> <li>①学校自己点検・教員自己評価アンケートを実施した。(教員)</li> </ol> </li> <li>3. 外部評価 <ol style="list-style-type: none"> <li>①外部評価委員会を実施した。</li> <li>②評価結果を公表した。(ホームページにて)</li> </ol> </li> <li>4. 教員面談 <ol style="list-style-type: none"> <li>①管理職と教員面談を実施し、課題を共有し改善に取り組んだ。</li> </ol> </li> <li>5. 校務分掌内規の再考と整理 <ol style="list-style-type: none"> <li>①校務分掌の運営を見直し、効率的かつ円滑な学校運営を目指した。</li> <li>②委員会・部活動組織の合理化と充実を図った。</li> </ol> </li> <li>6. ペーパーレス化の推進 <ol style="list-style-type: none"> <li>①職員会議等資料のペーパーレス化を推進した。</li> </ol> </li> </ol>
保護者と教師の会・同窓会・地域活動等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 父母と教師の会等活動 <ol style="list-style-type: none"> <li>①各支部総会を実施した。</li> <li>②父母と教師の会等総会を実施した。</li> <li>③成人教育研修を実施した。</li> <li>④広報誌(櫻真)を発行した。</li> <li>⑤登校指導を実施した。</li> </ol> </li> <li>2. 同窓会活動 <ol style="list-style-type: none"> <li>①新入生への校歌CDを配付した。</li> </ol> </li> <li>3. 地域活動 <ol style="list-style-type: none"> <li>①地域自治体や商工会と連携し、地域おこしイベントや事業への協力をおこなった。</li> <li>②指定緊急避難場所としての防災訓練を実施した。</li> <li>③桜川市と官学連携協定を結び、地域活性化と本校の情報発信力を強化を図った。</li> </ol> </li> </ol>

部門:土浦日本大学中等教育学校

事業項目	事業内容
令和7年度 事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内初の中等教育学校として、6年間完全一貫性のメリットを生かして、多様な教育活動の実践を行った。本校の教育の指針である、卓越性、読み解き力、相互依存を身につけるための様々な事業を校長統括のもと展開し、新たな教育活動の創発に努めた。</li> <li>・今後20年間を見据えた先進的な学習を展開するとともに、進路実現により一層力を入れることが出来る体制を構築していった。さらに、生徒が主体的に学習に取り組むことが出来る様々な行事を盛り込むことで、発達段階に応じた積極的な探究活動、表現活動を行った。</li> </ul>
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員会議を抜本的に改革し、その中で教員のスキル向上のための研究分科会を行った。この成果は、これまで以上に、多方面で先進的な教育を模索し、時代を先取りする教育の展開を可能とした。</li> <li>・成績評価を抜本的に見直し、拡大化する総合型入試にも対応できる真の学力の育成に努めた。これまでの期間に依存した定期考査から、個々の教科の実情に応じたユニットテストを導入するとともに、定期的には、探究活動などを評価するパフォーマンステストを併用することで、メリハリをもった学習を展開することで、学力観の転換を図っている。</li> <li>・新しい海外研修に対応し、海外研修と関連付ける学習構造を抜本的に見直すことで、文化社会的な学習への関連付けに努め、小論文などで頻出のカルチュラル・スタディーズの知識、フレームワークなどの共有を行った。</li> <li>・新たな教科主任を、教務主任及び担当教頭が組織的に導くことで、新しい教育方法及び評価基準がスムーズに浸透するように努めた。</li> <li>・最難関大学、海外大学、日本大学の三本柱をしっかりと内外に示すことが出来る実績をつくるため、一般入試及び総合型入試にも対応できる両面的な学習指導の在り方が構築できつつある。</li> </ul>
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模試の在り方を抜本的に見直し、総合型選抜向けの生徒と一般入試向けの生徒に対して柔軟に対応できるシステムの構築に努めた。従来、偏差値やGTZ(学習到達度ゾーン)などによる機械的な分類を排し、生徒個々の能力や希望に応じた受験指導ができるように、学校全体で生徒の能力を見ていけるように、教務の成績評価と連動させたシステムが構築されつつある。</li> <li>・令和7年度は、東京大学をはじめとする難関大学への進学が大きく伸びた。さらに、日本大学医学部3名、筑波大学の医学部など、医学部進学者の向上が見られた。令和8年度は、難関大学の合格実績を減らすことなく、大学対策の課外を3月から展開することで、生徒の学力向上を図った。</li> <li>・海外研修がオーストラリアになったことを活用し、海外大学への意識を高めるとともに、日本大学のペンブルックカレッジの価値を創造し、英国も含めた海外への意識を醸成させていった。今後は、さらに組織的に海外大学への意識向上を図っていくための施策案を作り上げていく。</li> <li>・日本大学への大学見学会を、生徒だけでなく保護者にも行うことで日本大学の良さを再確認させ、日本大学への進学実績をさらに安定した数値にしていく。</li> </ul>
国際化教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外研修をオーストラリアへと変更したことで、英語圏のみならず環太平洋地域のグローバル化する世界の諸問題に目を向け、その解決に関与する姿勢を作り出す一助とすることができた。</li> <li>・環太平洋の文化と日本の文化を照合することで、海洋的な繋がりを把握し日本列島の歴史的かつ文化的な意味を再認識させた。</li> <li>・イングリッシュフェイトをOCの授業と連動させ、子どもたちの英語学習に対する能動的な参加を促すとともに、英語で発信することの喜びを味わわせることができた。</li> <li>・高円宮杯を中心に、今後もより一層英語コンテストに注力し、県内だけでなく関東全域に本校の英語教育の成果を広く公開していくことができた。</li> </ul>
学校生活	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>生徒指導</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度初めに学校安全計画・生徒指導計画を立ていじめ対策についても前期課程と後期課程の発達段階の差に配慮しつつ、学年保護者会や外部評価委員会などにより保護者との共有を図った。欠席理由が「腹痛」「頭痛」「体調不良」の際にはすぐに担任が家庭に電話し、人間関係などの悩みが絡んでいないか確認をし、いじめの早期対策を行ったことで、大きな事案は起きることはなかった。</li> </ul> </li> <li><b>いじめ対策</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ対策については、年2回保護者へのアンケート、年3回生徒へのアンケートを行い、何らかの訴えが見られた場合すぐに学年で対応を行い、その結果をフィードバックする体制にあるが、今年度からは、定期的に学年と生徒指導部が情報共有し、アンケート結果を待つのではなく、積極的にいじめの芽を発見し、解決していく体制を構築することを目標とし、結果につなげていった。</li> </ul> </li> <li><b>教育相談</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5Fカフェテリアを改装したことで、生徒に近い位置に教員を随時配置し、問題行動等に速やかに対応できる体制を作る。学年支援分掌を創設し、学校生活になじめない生徒や長欠生徒に細やかに対応できる体制を組織的に行うことができた。</li> </ul> </li> <li><b>部活動</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期課程の参加率を引き続き向上させ、生徒の居場所づくりに努め、本校への帰属意識を高めた。</li> <li>・校内で閉じる部活動ではなく、OpenSchoolなどを通じて近隣の小学生にも参加出来る機会を設けることで、本校の部活動への認知を高め、広報活動へもつながるような工夫を行った。</li> </ul> </li> <li><b>防災</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練と共に、緊急連絡とも連動させたネット時代の実践的な訓練を行い、生徒たちの安全な学校生活を担保するための準備を行った。また、地域奉仕活動、教育講座などを通じて、生徒自身に安全に対する意識を高めた。教職員は、防犯講座などを通じて不審者対応及び緊急事態に瞬時に対応する方法を学ぶ機会を得ることができた。</li> </ul> </li> </ul>
入試広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受験生が1,000名を越える状況に対応し、しっかりと学習指導、生活指導、進路指導を行っている学校の様子を塾で直接に指導を行っている先生方に直に伝えていくことで、さらに優秀な生徒の確保に努めることができた。</li> <li>・特待生などをしっかりと確保することができた。また、優秀な生徒に対して、学校全体で生徒の指導に当たることが出来る体制を構築していった。</li> <li>・TX沿線、常磐線沿線、県西部地区など地域により、私学へ希望する内容が異なるため、適材適所に戦略を変えた広報活動を展開していった。</li> <li>・多くの教職員を入試関連業務に参加させることを通じて、学校全体で入試に対して取り組むと同時に、広報コンテンツの見直しを図り、より開かれた情報公開を行っていくことができた。</li> </ul>

施設設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎の維持保全を行うため、校舎外壁(東・南面)の塗装・防水・補修等の改修工事を実施した。</li> <li>・未設置だった13教室(普通教室)にプロジェクターの設置工事を行い、また、改装した5階教室を少人数でのオールコミュニケーション授業で活用し、授業内容の充実化に繋げた。</li> <li>・生徒の憩いの場となっている庭園に、新たに東屋を新設し、よりよい環境作りを行った。</li> <li>・継続的に、経年劣化している施設設備の見直しをはかると共に、校内無線LANアクセスポイントの交換等を実施し、教科教育の充実化に繋げた。</li> <li>・燃料費高騰への対応、環境負荷への対応の両面から節電に心掛けた。また、施設設備を大切に扱うことで、公共的な立ち振る舞いを学ぶように継続的に指導を行った。</li> </ul>
運営・管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校長の指揮のもと、副校長から教頭、副教頭、主事、主任へスムーズに情報が共有されるだけでなく、全教職員が教育的諸活動の意図を自ら言語化でき、行動へと移すことが出来るように努めた。</li> <li>・学年担当副校長のもと、前期課程と後期課程の発達段階に応じた諸問題に早急に対応できる組織を構築することで、諸問題に素早く対応することができた。</li> <li>・校務分掌担当副校長のもと、副教頭が現場の教員と密に連携することで、新たな教育評価基準及び進路改革をスムーズに実行するとともに、部活動や行事などに生徒が主体的に関わる事が出来る体制を構築していくことができた。</li> </ul>
保護者と教師の会・同窓会・地域活動等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と教師の会の運営においては、学年会及び地区会においてより一層保護者の団結を目指し、保護者による口コミの広報活動へとつなげていくことができた。</li> <li>・学年の活動と地区会の活動を進めながら、縦と横のつながりを強化することで、より一層発展した形の保護者と教師の会を構築した。</li> <li>・地域奉仕活動においては、地域に活動の趣旨や内容が伝わるような工夫を行い、さらに継続的かつ主体的に活動が発展するように計画していった。</li> <li>・同窓会の在り方を組織的に発展させていくために、これまでの卒業生とオンラインを活用して連絡を取ることで、学年、部活、教科の力を生かした計画を立てていく道筋を作った。</li> </ul>

部門: 土浦日本大学高等学校附属幼稚園

事業項目	事業内容
<p>令和7年度 事業概要</p>	<p>教育・保育の質を確保するため、経験豊富な教員をバランスよく配置し、園児の健やかな発達に適した環境を提供することができた。</p> <p>ICTシステムを活用し、園だより・行事等の園の様子を一斉配信し、保護者と園双方の利便性を高めた。</p> <p>2歳児対象の親子教室を年間14回行い、園児募集基盤の確立及び幼児の成長を支援した。</p> <p>プール改修工事、2階廊下のタイルカーペット張替工事及び園庭遊具下安全対策ゴムチップ舗装工事を行い保育環境を整備した。</p>
<p>保育指導</p>	<p>日々の保育を通し、身体、心、考える力の調和のとれた豊かな成長を促すことができた。</p> <p>茨私幼連研修会等外部研修会への参加及び園内研修を定期的に行い、専門性や指導力の向上に務めた。</p>
<p>特色ある教育</p>	<p>中等教育学校の教員(ネイティブ)による英語教育を継続し、ゲームやリズム遊び等を通し楽しみながら自然な形で英語を学ぶことができた。</p> <p>本や紙芝居の読み聞かせを通して想像力や集中して取り組む姿勢を育てることができた。</p> <p>年齢別にワークブックを使用し、数字や文字・言葉の基礎を楽しみながら学ぶことができた。</p> <p>4歳児・5歳児に鍵盤ハーモニカの基礎から簡単な童謡の吹奏指導を行った。</p> <p>縄跳び、跳び箱、マット、鉄棒等、ゲームを交えながら運動の基本を指導し、体力作りを行った。</p> <p>5歳児に習字を行い就学前の集中力を培い文字に親しんだ。</p> <p>希望者に対し預り保育を実施し、多様化する保護者のニーズに応えた。</p>

<p>生徒の生活</p> <p>生徒指導</p> <p>教育相談</p> <p>防災</p> <p>行事等</p>	<p>遊びを通して友達への思いやりや互いに協力する姿勢，落ち着いて物事に取り組み集中力を養い育てることができた。</p> <p>保護者の希望に応じて随時実施した。</p> <p>防災マニュアルに則って，迅速に緊急事態に対応できるように全職員・園児を対象とする地震・竜巻・火災・防犯訓練を毎月実施した。帰宅困難者30名分の防災グッズを備蓄し災害に備えた。</p> <p>子供の日集会，交通安全指導，七夕集会，お泊り保育，夏祭り，運動会，人形劇公演，遠足（アクアワールド大洗水族館），おゆうぎ会，もちつき，クリスマス会，こま回し大会，凧揚げ，豆まき集会，縄跳び大会，ひな祭り集会，お別れ会を実施。四季の行事を通して，園児が楽しみながら日本の伝統文化を体験できるよう行事内容を工夫した。</p>
<p>園児募集</p>	<p>教育内容・教育方針が明確にわかる入園案内及び入園説明会用動画・HPを利用し，行事等の紹介を充実させた。</p> <p>入園説明会を9月に園で2回実施した。また，見学希望者については随時機会を設けた。</p>
<p>施設設備</p>	<p>プール改修工事，2階廊下のタイルカーペット張替工事及び園庭遊具下安全対策ゴムチップ舗装工事を行い，保育環境を整備した。</p> <p>園児置き去り防止安全装置（送迎バス）の活用，登降園管理システムによる園児の出欠確認を行い，安心安全に努めた。</p>
<p>運営・管理</p>	<p>学校自己点検評価・外部評価の実施した。</p> <p>役職別の研修を実施し，それぞれ高い意識を持って職務遂行ができた。</p>
<p>保護者と教師の会・同窓会・地域活動等</p>	<p>保護者対象の給食試食会を兼ねた子育て支援懇親会及びバランスボール講習会を開催し，保護者の交流の場を提供した。</p> <p>2歳児親子教室・入園決定者への園庭開放を実施し，保護者の交流の場を作るとともに，園児募集基盤の確立した。</p> <p>保幼小架け橋プログラムの一環として，小学校での体験活動や交流イベントを協働して取り組み，幼稚園から小学校への円滑な接続を支援した。</p> <p>市内中学校等の職場体験及び体験学習を受け入れ，園児と中学生の交流による双方の豊かな体験の機会を提供し協力することができた。</p>

### 3.財務の概要

#### (1)経年比較

##### ① 貸借対照表

(単位:円)

資産の部					
科 目	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	本年度末
固定資産	7,498,780,081	7,375,610,054	7,322,296,792	7,232,461,667	7,106,413,456
流動資産	1,342,746,064	1,295,908,290	1,192,187,702	1,239,629,037	957,994,768
資産の部合計	8,841,526,145	8,671,518,344	8,514,484,494	8,472,090,704	8,064,408,224
負債の部					
固定負債	455,166,180	347,898,469	324,029,318	280,577,103	300,033,818
流動負債	1,083,319,090	924,536,145	833,009,364	952,690,173	1,050,617,757
負債の部合計	1,538,485,270	1,272,434,614	1,157,038,682	1,233,267,276	1,350,651,575
純資産の部					
基本金	17,725,628,668	17,935,888,867	18,123,696,454	18,193,457,996	18,246,087,859
繰越収支差額	△ 10,422,587,793	△ 10,536,805,137	△ 10,766,250,642	△ 10,954,634,568	△ 11,532,331,210
純資産の部合計	7,303,040,875	7,399,083,730	7,357,445,812	7,238,823,428	6,713,756,649
負債及び純資産の部合計	8,841,526,145	8,671,518,344	8,514,484,494	8,472,090,704	8,064,408,224

② 事業活動収支計算書

(単位:円)

科 目		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	本年度
教育活動収支	学生生徒等納付金	2,555,707,737	2,737,101,101	2,603,438,941	2,652,771,058	2,560,212,497
	手数料	105,633,500	102,132,900	98,839,900	93,208,600	94,202,300
	寄付金	74,655,024	93,495,970	136,085,093	70,642,737	71,301,185
	経常費等補助金	1,094,475,608	1,149,414,355	1,225,712,433	1,226,833,956	1,213,886,723
	付随事業収入	62,663,888	75,860,872	76,477,119	76,937,234	82,767,633
	雑収入	56,091,790	139,615,457	119,833,567	187,399,962	36,166,651
	教育活動収入計	3,949,227,547	4,297,620,655	4,260,387,053	4,307,793,547	4,058,536,989
	人件費	2,546,197,574	2,692,481,327	2,796,559,869	2,983,570,751	2,815,180,852
	教育研究経費	1,044,960,327	1,224,234,704	1,212,731,662	1,166,671,129	1,213,800,310
	管理経費	274,981,361	283,301,108	294,331,489	305,686,326	321,930,677
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
教育活動支出計	3,866,139,262	4,200,017,139	4,303,623,020	4,455,928,206	4,350,911,839	
教育活動収支差額	83,088,285	97,603,516	△ 43,235,967	△ 148,134,659	△ 292,374,850	
教育活動外収支	受取利息・配当金	20,864	24,342	19,233	688,763	3,728,521
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育外活動収入計	20,864	24,342	19,233	688,763	3,728,521
	借入金等利息	5,208,248	3,889,607	2,615,968	1,521,154	1,382,314
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育外活動支出計	5,208,248	3,889,607	2,615,968	1,521,154	1,382,314
教育活動外収支差額	△ 5,187,384	△ 3,865,265	△ 2,596,735	△ 832,391	2,346,207	
経常収支差額	77,900,901	93,738,251	△ 45,832,702	△ 148,967,050	△ 290,028,643	
特別収支	資産売却差額	0	0	478,100	0	249,000
	その他の特別収入	29,718,450	2,841,000	4,776,800	31,464,560	9,494,241
	特別収入計	29,718,450	2,841,000	5,254,900	31,464,560	9,743,241
	資産処分差額	2,106,179	536,396	1,060,116	1,119,894	1,770,377
	その他の特別支出	0	0	0	0	243,011,000
	特別支出計	2,106,179	536,396	1,060,116	1,119,894	244,781,377
特別収支差額	27,612,271	2,304,604	4,194,784	30,344,666	△ 235,038,136	
基本金組入前当年度収支差額	105,513,172	96,042,855	△ 41,637,918	△ 118,622,384	△ 525,066,779	
基本金組入額合計	△ 209,538,271	△ 210,260,199	△ 197,000,332	△ 70,115,347	△ 53,919,900	
当年度収支差額	△ 104,025,099	△ 114,217,344	△ 238,638,250	△ 188,737,731	△ 578,986,679	
前年度繰越収支差額	△ 10,318,562,694	△ 10,422,587,793	△ 10,536,805,137	△ 10,766,250,642	△ 10,954,634,568	
基本金取崩額	0	0	9,192,745	353,805	1,290,037	
翌年度繰越収支差額	△ 10,422,587,793	△ 10,536,805,137	△ 10,766,250,642	△ 10,954,634,568	△ 11,532,331,210	
(参考)						
事業活動収入計	3,978,966,861	4,300,485,997	4,265,661,186	4,339,946,870	4,072,008,751	
事業活動支出計	3,873,453,689	4,204,443,142	4,307,299,104	4,458,569,254	4,597,075,530	

(注) . 賞与引当金の計上

学校法人会計基準の改正により、引当金の計上基準が明確化されたことに伴い、当年度から計上している。これにより期首に計上すべき額として特別収支に賞与引当金特別繰入額 243,011,000円を計上し、当年度に賞与として支給した額から特別収支の計上額を除いた額及び支給は翌年度であるが当年度の支給対象期間に相応する額として、人件費に賞与引当金繰入額 247,839,000円を計上している。

この結果、従来の方法と比較して教育活動収支差額、経常収支差額が4,828,000円減少し、基本金組入前当年度収支差額が247,839,000円減少している。

### ③ 資金収支計算書

(単位:円)

収入の部					
科 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	本年度
学生生徒等納付金収入	2,555,707,737	2,737,101,101	2,603,438,941	2,652,771,058	2,560,212,497
手数料収入	105,633,500	102,132,900	98,839,900	93,208,600	94,202,300
寄付金収入	86,521,400	91,186,200	133,024,228	68,380,000	69,633,500
補助金収入	1,098,271,608	1,151,012,355	1,226,507,433	1,254,835,956	1,218,755,723
資産売却収入	0	0	479,100	0	250,000
付随事業・収益事業収入	62,663,888	75,860,872	76,477,119	76,937,234	82,767,633
受取利息・配当金収入	20,864	24,342	19,233	688,763	3,728,521
雑収入	56,091,790	139,615,457	119,833,567	187,399,962	36,166,651
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	307,220,160	285,312,000	288,688,400	269,787,600	304,223,800
その他の収入	679,085,899	974,650,884	1,525,339,138	1,059,333,009	1,110,567,447
資金収入調整勘定	△ 497,453,468	△ 597,601,560	△ 560,113,488	△ 650,027,698	△ 470,624,846
前年度繰越支払資金	647,304,797	697,450,285	813,900,517	754,537,314	684,767,104
収入の部合計	5,101,068,175	5,656,744,836	6,326,434,088	5,767,851,798	5,694,650,330
支出の部					
科 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	本年度
人件費支出	2,542,294,123	2,722,915,708	2,813,411,268	2,999,559,074	2,809,660,757
教育研究経費支出	777,574,153	951,406,360	926,010,532	878,510,274	925,847,918
管理経費支出	235,958,055	244,863,208	256,719,401	268,418,313	284,260,271
借入金等利息支出	5,208,248	3,889,607	2,615,968	1,521,154	1,382,314
借入金等返済支出	73,470,000	73,470,000	73,470,000	23,480,000	23,480,000
施設関係支出	113,386,328	30,508,154	183,402,503	49,117,799	16,026,220
設備関係支出	52,291,340	79,941,356	94,567,036	105,288,298	109,661,038
資産運用支出	120,595,672	118,101,075	470,635,478	78,129,073	80,821,450
その他の支出	561,248,987	845,829,043	999,125,996	992,240,532	1,069,851,293
資金支出調整勘定	△ 78,409,016	△ 228,080,192	△ 248,061,408	△ 313,179,823	△ 205,732,924
翌年度繰越支払資金	697,450,285	813,900,517	754,537,314	684,767,104	579,391,993
支出の部合計	5,101,068,175	5,656,744,836	6,326,434,088	5,767,851,798	5,694,650,330

#### ④ 活動区分資金収支計算書

(単位:円)

科 目	本年度
教育活動による資金収支	
教育活動資金収入計	4,056,069,304
教育活動資金支出計	4,019,768,946
差引	36,300,358
調整勘定等	17,905,900
教育活動資金収支差額	54,206,258
施設整備等活動による資金収支	
施設整備等活動資金収入計	5,919,000
施設整備等活動資金支出計	203,487,258
差引	△ 197,568,258
調整勘定等	62,151,624
施設整備等活動資金収支差額	△ 135,416,634
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	△ 81,210,376
その他の活動による資金収支	
その他の活動資金収入計	752,956,670
その他の活動資金支出計	779,845,319
差引	△ 26,888,649
調整勘定等	2,723,914
その他の活動資金収支差額	△ 24,164,735
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	△ 105,375,111
前年度繰越支払資金	684,767,104
翌年度繰越支払資金	579,391,993

#### 4 学校法人の業務の適正を確保するための体制の整備及び運用状況の概要

##### (1) 理事の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- ① 理事会、評議員会等の重要会議の議事録その他理事の職務執行に係る情報については、寄附行為及び文書管理規程に基づき、適切に作成、保存及び管理している。

##### (2) 損失の危機の管理に関する規程その他の体制

- ① 危機管理委員会等必要に応じた委員会を設置している。
- ② 個人情報保護に関する規程を設けるなど、個人情報の適正な管理を行っている。
- ③ 災害、事故その他の緊急時に備え、対応組織や情報連絡体制等について規程等を定めるとともに、継続的な教育と定期的な訓練を実施している。
- ④ 損失の危機に備え、役員賠償責任保険等の適切な保険に加入している。

##### (3) 理事の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ① 理事会は、定時に開催するほか、必要に応じて臨時に開催し、法令・寄附行為に従い、必要な事項については評議員会の意見を聴いたうえで、業務執行上の重要事項を審議・決定するとともに、理事の職務執行を監督している。
- ② 職務分掌(理事の職務執行のために効率的な職員の人員配置・役割分担ができているか)・決裁権限(理事会事項であるか、理事長決裁であるか等)を組織規程・校務分掌規程・調達規程等により明確にし、理事、職員等の職務執行の適正性を確保するとともに、機動的な業務執行と有効性・効率性を高めている。
- ③ 令和7年度に、組織規程に副理事長の職務・任期等を規定し、理事の職務の執行がより効率的に行われる体制を整備した。

##### (4) 職員の職務の執行が法令及び寄附行為に適合することを確保するための体制

- ① 内部監査規程を設け、必要に応じて職員が行う事業等の公正かつ効率的な実施を確保している。
- ② ハラスメント防止に関する規程、ハラスメント・体罰防止委員会を設け、必要に応じて対応できる体制を整備している。

##### (5) 監事の監査が実効的に行われることを確保するための体制等

- ① 監事は、理事会、評議員会等の重要会議への出席並びに重要書類の閲覧、審査及び質問等を通して、理事等の職務執行についての適法性、妥当性に関する監査を実施している。
- ② 職員は、理事長決裁書類等を書面にて閲覧可能な状況で整理・保管するなど、監事が報告を求めた場合、速やかに対応する体制を整備している。

附属明細書

該当事項なし